

## 第7回 伊豆市教育振興審議会次第

平成30年5月25日 19:15～

於：市役所別館2階 会議室

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 協 議

#### (1) より良い中学校の教育環境づくりに向けての意見交換

- ・答申案の検討について

### 4 その他

#### (1) 前回会議録の確認

#### (2) 第8回伊豆市教育振興審議会の開催

日 時：平成30年6月5日（火）午後7時15分～ 会場：別館2階会議室

### 5 閉 会

## 修善寺・中伊豆・天城湯ヶ島地区の中学校のあり方について

### 1、はじめに

文部科学省では、中学校教育は、生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要であり、一定の集団規模が確保されていることが望ましいと考えています。

教育振興審議会では、中学生にとって「良い学校教育環境」について議論をしました。生徒たちの人格形成には家庭・地域社会・学校が一体となり、社会人として責任と希望を持ち、幸せな人生を送るために必要な「生きる力」の基礎を育む教育環境のあるべき方針について以下のとおりとりまとめました。

### 2、10年後を見据えたより良い中学校教育環境について

- 1) 中学校においては、各教科の専門性を持った教員が常勤し、質の高い教育をするという教科教育の本質を保つことが公教育の義務である。私たち大人は、その教育環境を提供する義務を持ち、そのための努力をすべきである。
- 2) こども園や小学校では、地域における社会性の基盤づくりを担い、中学校では高等教育、社会人に繋がる基礎的な人間関係を構築する役割を担う。そのためにも一定規模の集団による学校環境が必要である。
- 3) 学校は、子どもにとっての小さな社会であり、より良く生きることを考え挑戦していく場である。思春期である中学生の時期に、協力しながら「生きる」ことの価値や重要性を体験するためにも、同年代の一定規模の集団が必要である。
- 4) 部活動についても、生徒が希望する部活がなく、他地区の中学校に指定校変更している現状は課題である。健やかな身体づくりや異学年、先生との関わりを通じ社会性を育み、学校の活性化に寄与しており、希望する部活動が選択できる学校環境づくりが重要である。
- 5) 校舎の老朽化が進み雨漏りやバリアフリー、トイレ等、子どもたちにとって望ましい教育環境ではなく、速やかに学校施設環境の改善が必要であるという現状である。3校で最も新しい修善寺中学校でさえ数年後には長寿命化対策又は改築工事の対策が必要になる。大きな地震が想定される現在、防災対策の面からも施設面での改善も必要である。

### 3、良い教育環境について

#### ①学力面や教育環境面

- 1) 中学生にとっての教育の質を高めるためには、子どもの教育環境を整える役割を担う教師にとって働きやすく、働きがいがある学校教育の実現に向け取り組む必要がある。そのためには、適切な教員定数が保障される中規模程度の学校が望ましい。
- 2) 小規模校におけるきめ細かな指導も重要であるが、こうした教育環境は中規模校においても、少人数指導や習熟度別学習などの多様な学習形態で対応が可能である。

#### ②人間関係面

- 1) 生徒が集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、一定の集団規模が確保されていることが望ましい。

#### ③部活動環境面

- 1) 校舎と部活動を行うグラウンド等が離れ運営面や安全面で課題がある。部活動ができる望ましい環境は、校舎とグラウンド、体育館が隣接し、かつ必要な面積を確保した環境を整備すべきである。

#### ④通学面

- 1) 通学については、3校が統合する場合の最大の課題であることから、徒歩通学、自転車通学路を整備すべきである。特に伊豆市は他の市町に比べ通学エリアが広いので、通学対策が必要である。
- 2) 全国各地の様々な通学対策を研究し、徒歩、自転車、バス等保護者の意見も踏まえながら、生徒の安全な通学対策を最優先に、地域の公共交通とも連携し、最善の施策方針を保護者に示すべきである。

#### ⑤施設の老朽化対策面

- 1) 現在の施設の老朽化がかなり進んでいるので、新しい学習環境を整備することは急務である。

#### ⑥学校行事・参観日時等の駐車場確保

- 1) 学校行事や地域、保護者との連携を考えるうえで、中学校には駐車場の確保が必要。現在の各中学校においてもこうした駐車場がなく、駐車場の確保ができる中学校が必須である。

4、より良い中学校教育環境実現に向けた中学校のあり方について

保護者や地域の人々の意見、委員の視察、学校規模に係る文部科学省等による資料から、伊豆市の修善寺・中伊豆・天城地区の中学生にとってより良い教育環境としては、統合により中規模程度とすることが望ましい。

5、今後の計画策定に際し配慮すべき事項について

①魅力ある（又は特色ある）学校教育環境づくりと教育内容の充実について

1) 特別支援教育の充実等、様々な教育ニーズに対応できるきめ細かな学習環境づくりが必要である。

2) いじめ対策や不登校対策についてもきめ細かな取り組みが必要である。

3) 魅力ある（又は特色ある）教育環境のある学校を目指し、若い世代が戻り易いよう努力することが重要である。

②ていねいな説明を

教育委員会では、中学生のより良い教育環境づくりの新たな計画や方針を、保護者等にも関心を持って考えていただくよう、必要な情報をわかりやすく丁寧に説明することが大切である。

③新たな教育環境の実現の時期について

中伊豆中学校は築54年、天城中学校は築46年等、施設老朽化も深刻であり、生徒にとって環境改善は急務で対策は待ったなしの状況であることから、教育委員会では、保護者に対して速やかに教育方針案や計画案を示し意見を踏まえ、時期を決定していただくよう要望する。